信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**中国の言葉と文化を実体験する上海・蘇州の大学訪問視察**	
学部・研究科名	人文学部	
プログラム 実施期間	2017年9月17日～9月23日	
研修先(国・都市・施設名)	中国・上海(同済大学／上海師範大学)・蘇州(蘇州大学)	
参加者数 ： 7名		知の森からの支援者 ： 7名
プログラム概要	信大の交流協定校である同済大学(上海)・蘇州大学(蘇州)を訪問、当大学の授業見学や現地学生・信大からの留学生との交流会を通じ、信大生のアジア地域に対する興味を高め留学意欲を刺激する。協定校以外にも信大教員とコネクションのある上海師範大学(上海)も訪問見学し、上海における大学事情について視野を広げる。大学見学だけでなく、中国の一般人家庭を訪問しての見学と談話会や、上海・蘇州を代表するいくつかの地域を観光し、中国の歴史と現代社会について理解を得る。 参加学生には、移動中における種々の手続きや観光・買い物・両替など、想定され得る様々な場面で中国語を用いた基本的なコミュニケーションを課し、外国語学習についての必要性と今までとは違う取り組み方について認識を新たにさせる。中国現地マスメディアを目にし、インターネット利用を体験することで、日本社会との相違を理解し、両国の社会・文化について相対的に思考することのできる視野を養うものである。	

実施状況・成果

初日の9/17夜は信州大学同窓会上海支部の同窓生(5名)と会食を持つ機会があり、中国で長期間生活している人々から日本と中国の社会・文化の違いについて情報を得ることができ、学生時代に必ずしも中国語を履修していなくても中国現地で仕事をすることが可能であるという実例に接することができた。それは当人の意欲と異社会に対する柔軟な適応力に裏打ちされたものであり、学生たちが自分たちの将来を考える上で大いに刺激になったであろうと思われる。

9/18中国一般人家庭の見学と談話会、9/19蘇州大学と9/21同済大学の授業見学と学生たちとの交流、9/22上海師範大学キャンパス見学においては、日本社会においてメディアが伝えるものとは異なる印象を学生たちが受けていることが、旅行後の報告会に寄せられた参加学生の感想から見受けられる。こういった方面は現地社会に身を置かないと理解につながらないものであり、異文化・異社会を理解するために不可欠な相対的思考を得る手がかりになったであろうと考えている。

9/20大学見学の合間となる蘇州１日観光では当日悪天候だったことにより、当初の予定より移動に時間を要し、参加学生の体力を考慮して、後半の留園観光から近場にあった报恩寺・北寺塔観光へと予定を変更した。アドリフ的対応であったが、中国寺院の形式と庭園茶室における地元の人々の活動など、予定になかったものを学生たちに見聞させる結果にもつながり、学生から好評の感想を得ている。

事前準備として参加学生に中国通信アプリ・微信Wechatをアカウント登録させ、現地でこまめに連絡を取り、移動中に発生した一部学生の地下鉄乗り遅れなどの少数のトラブルに対してもセイフティネットとして活用できた、その経験を得たのは収穫だったと考える。日本と同様の通信環境が得られる端末機材を準備することも可能ではあったが、それでは異社会に対する学生の理解を逆に損なってしまう面が否めないため、意図的に中国現地インターネット環境と同じ形になるよう選択した。

参加学生には、移動中における種々の手続きや観光・買い物・両替など、想定され得る様々な場面で中国語を用いた基本的な会話実践を課し、引率教員の補助を要したときもあったが、中国語を用いたコミュニケーションを行い、巧拙はさておき現地住民との意思疎通が成功したという体験を持たせることができた。拙くとも何はともあれ外国語を口にするという意志を持つこと、また同時に自分が脳裏で思い描いて目指す言語表現の表出を可能にするためには今何が不足しているか、それを学生自身に考えさせる機会になったと考える。

学生の声①-人文学部　学生

この上海・蘇州研修旅行で、印象に残った物・事柄というと、先ず日本でも馴染みのある店舗・製品(ファミリーマート、KFC、スターバックスコーヒー、午後の紅茶、コカ・コーラ、スプライトetc.)を多く目にしたことで、中国でも広く流通しているのだなという印象を受けました。事前指導として情報を得ていたためで問題はなかったが公衆トイレに基本的に紙がないこと、また水道水を飲むことができず飲料水を都度購入しないと手に入らないといった点は不便に感じました。街中では絶え間なくバイク等のクラクションが鳴り響いていて、通りでは客引きが日本よりしつこかったりするなど、国柄の違いによるものだと思います。いろいろな中華料理を口にしましたが、日本料理と比較して一番感じたのは料理に必ずと言っていいほど油を使用することで、その食文化の違いがどこから来ているのか興味を新たにしました。セキュリティについては日本に比べ非常に厳しく、両替で利用した銀行の窓口が全てガラス張りであったり、電車の改札前に必ずX線機器による手荷物検査があり、外灘など人が多く集まる観光地には銃を所持した保安部職員が警備しているなど、社会情勢の違いを強く意識しました。
蘇州大学では、世界各国の様々な人種の人々が同じキャンパスで学んでいて、それぞれに確固とした目的を持ち、その目的のために中国語を習得しようと努めていることが分かりました。同済大学では、日本語学部の授業を見学し、現地の学生たちによる日本語スピーチを聞き、交流する機会を持ったのですが、彼らの日本語が上手いことに驚きました。自分が逆の立場になった場合、日本にやってきた中国人学生を前に、中国語であいさつが出来るかと言われると厳しいものがあると感じます。自分の実力を把握し、自分なりの意見を持ち、いざそのような機会が訪れたときに恥ずかしくない対応ができるよう、自分の言葉で表現できる力を身に着けたいと感じました。
今回の研修旅行では、場環境は整っていたのに中国語で話す機会を自ら無下にしていた感があります。もしも次にもこのような機会が与えられるのであれば、より積極性を持って取り組みたいし、それまでに会話するまでの自信をつけられように精進します。

学生の声②-農学部　学生

初めての海外体験として中国へ行きましたが、出発以前は日本のマスコミ報道やインターネット上における言説などから、中国の人々は反日姿勢が強いのではと考えていました。しかし実際に上海の同済大学で日本語学科の学生と交流したところ、とてもフレンドリーに接してきて、日本の漫画やアニメや芸能界など様々な面に興味を持っている学生がいることが分かり、中国では反日という概念が薄れてきているのではないかという印象を持ちました。
今回蘇州の拙政園や上海の豫園など有名な庭園の観光もしましたが、その中の建築物が日本と似ている点を持つ一方で微妙に異なる部分もあり、興味深く感じました。道教の寺院も観光し、お経を上げている光景なども目にしましたが、道教の神の数が十干十二支で六十体祀られているなど、その数の多さが印象に残りました。
上海も蘇州も大気汚染対策のため自動車台数規制がされていて、そのためスクーター型電動自転車が街中やまた大学キャンパス内を大量に走り回っていますが、どのような価格帯に設定されて一般家庭や学生に普及しているのか興味を持ちました。
今回中国の通信アプリ・微信Wechatを利用して他の研修参加学生や引率の先生と連絡を取り合いましたが、普段利用しているLINEやGoogle検索が全く使えないのはとても不便に感じました。中国のインターネット事情はどうなっているのか、Google系列が規制されている中で海外との通信や情報収集はどのように行っているのかが気になりました。
現地ではトイレが不衛生だったり、信号を守らない電動自転車や車が多かったり、水道水が飲めないので飲用水を買って準備しなければならない点は、やはり不便に感じました。
また英語である程度現地の人々とコミュニケーションできるかなと期待していたところ、実際にはあまり英語が通じなかったのが予想と異なっていたことでした。
この度は多くのことを経験して学ぶことができ、有意義な海外研修でした。

蘇州大学_外国人留学生との交流会終了後記念撮影

同済大学_日本語学科学生との交流会終了後記念撮影